

## “ほっこり”の意味

「温泉でほっこりする」など、このところ「ほっこり」ということばがよく使われるようになった。番組のタイトルにも「ほっこり」は人気で、「絆ほっこり東北の鍋」「ほっこりニッポン旅」「秋のほっこり、あったかポトフ」など、挙げれば切りがない。概して「あたたかくほっとする」「癒やされる」といったイメージをねらって使われている。国語辞書でもまずはこうした意味を最初に挙げているものが多い。ところが先日、何気なくテレビを見ていたら、民放で「“ほっこり”しすぎない北欧家具」を紹介するという内容の番組をやっていた。「ほっこり」だけなら驚かないが、「ほっこりしすぎない」とは初めて聞いたと思って見ていると、どうやら「ほっとしすぎない」、つまり「落ち着きすぎない（おしゃれでモダンな）」といった意味で使われているらしい。「ほっこり」は、「あたたかくほっとする」という意味合いから転じて、現代では次第に守備範囲を広げつつあるのを感じた。

しかし、この「ほっこり」、近畿地方、特に京都や滋賀では、昔からまったく違う意味でも使われてきたということを最近知った。例えば京都で「あー、ほっこりしたなあ」と言うときは、「疲れたなあ」の意味だ

という。先日、関西地方の放送局が参加して開かれた放送用語委員会でも話題にのぼり、地域や年代によっては「疲れた」という意味のことばだと考える人もいるため、誤解や違和感のない使い方をしよう注意喚起がなされた。

「ほっこり」の語源については諸説あるが、『地方別方言語源辞典』（2007）には、息つく「ほっと」と、あたたかい様を表す「ほこほこ」が関係して生まれ、「安心する様」とともに本来は「疲労」や「退屈」の意味もあったが、今では「ほ」の音の優しい響きから「癒やし」につながる言い方として使われるようになったとある。改めて辞書を引くと、方言としての「ほっこり」にはさまざまな意味が確認できる。「非常に疲れた様」（京都ほか）、「退屈な様」（三重ほか）、「うんざりした様」（福井ほか）などである（『日本語大辞典第二版』）。「ほっこり」ということば一つとっても、時代や地域によって、バリエーションがあるのはおもしろい。

放送用語としては「使用は慎重に」と心に留めつつも、「ほっこり」ということばを通して、改めて日本語の豊かさに気づかされ心が“ほっこり”したのだった。

滝島雅子（たきしま まさこ）